

事例番号:280063

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第六部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

1 回経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 28 週 4 日

22:50 子宮収縮に伴う疼痛が増強し受診、入院

4) 分娩経過

妊娠 28 週 4 日

23:14 胎児心拍数基線 140 拍/分、基線細変動正常 (moderate)、一過性頻脈(-)、変動一過性徐脈(中等度)出現

23:20 頃- 胎児心拍数陣痛図で、最下点が 70-80 拍/分の変動一過性徐脈あり

妊娠 28 週 5 日

0:06 前回帝王切開、陣痛発来、骨盤位の診断で帝王切開により児娩出、骨盤位

前回切開創のあたりに収縮輪を認め、中等量の凝血塊を排出

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:28 週 5 日

(2) 出生時体重:1312g

(3) 臍帯動脈血ガス分析値:pH 7.213、PCO₂ 35.4mmHg、PO₂ 31.4mmHg、
HCO₃⁻ 13.9mmol/L、BE -12.8mmol/L、血糖 75mg/dL、

乳酸 2.24mmol/L

- (4) Apgarスコア: 生後 1 分 5 点、生後 5 分 7 点
- (5) 新生児蘇生: 人工呼吸(バッグ・マスク)、気管挿管
- (6) 診断等:

出生当日 早産児、極低出生体重児、新生児呼吸窮迫症候群

- (7) 頭部画像所見:

1 歳 5 ヶ月 頭部 MRI で脳室周囲白質軟化症の所見を認める。

6) 診療体制等に関する情報

- (1) 診療区分: 病院
- (2) 関わった医療スタッフの数
 - 医師: 産科医 4 名、麻酔科医 1 名
 - 看護スタッフ: 助産師 2 名、看護師 2 名

2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、脳室周囲白質軟化症 (PVL) を発症したことである可能性が高い。
- (2) 脳室周囲白質軟化症 (PVL) 発症の原因は、早産に合併した常位胎盤早期剥離に伴う循環障害である可能性が高い。

3. 臨床経過に関する医学的評価

- 1) 妊娠経過
 - 妊娠中の管理は一般的である。
- 2) 分娩経過
 - (1) 入院時の診察所見から、緊急帝王切開を選択したことは、一般的である。
 - (2) 臍帯動脈血ガス分析を行ったことは一般的である。
 - (3) 胎盤病理組織学検査を行ったことは適確である。
- 3) 新生児経過
 - 新生児蘇生とその後の治療は一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

事例検討を行うことが望まれる。

【解説】 児が重度の新生児仮死で出生した場合や重篤な結果がもたらされた場合は、その原因検索や今後の改善策等について院内で事例検討を行うことが重要である。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

なし

(2) 国・地方自治体に対して

なし